

科学が好きな子どもを育てるために

岡崎市現職研修委員会理科部長 小豆坂小学校長 清水 範彦

「パッションフルーツの花が咲いているよ」
「時計みたいな花だね」
「実が2つもできているよ」
「いつになると食べられるの」

月曜朝会で、パッションフルーツの苗を育てていることを紹介した。その日から、子どもたちは花が咲くのを楽しみにしていた。放課になり興味のある子が校長室の前に見に来ると、窓を開けてパッションフルーツの話をする。

また、窓の下には、5月の自然観察研修会で岡崎葵メダカ本店の天野店長からいただいたメダカと産卵床が入った発泡スチロールの箱が置いてある。パッションフルーツを見に来た子は、メダカにも気が付く。メダカの産卵床を持ち上げて、卵を見せると、「すごく小さい」「透明だ」など、口々に言葉を発する。毎日見に来る子もいる。



初任者として赴任した中学校では、ソニー理科教育振興資金の論文に積極的に取り組んでいた。理科主任を中心に、理科部員6名が授業実践を行った。新任1年目で、先輩の先生方のご指導を受けながら、実践に取り組んだことが懐かしい。その後転任した中学校、小学校でもソニー教育資金の論文に応募していた。論文応募のために、授業では自作教材を使い、子ども主体の追究を大切にした。また、校庭には岩石園や水生植物園などの教材園を造り、教材の展示や水槽の設置など理科室を整備した。子どもたちが身近な自然に触れ、自然に対する興味・関心を高めるための環境づくりである。この時の経験から、今でも子どもたちが自然に触れることができる環境を校内につくりたいと思っている。

当時の岡崎市では、多くの学校がソニー教育資金に応募し、最優秀賞や優秀賞に入賞していた。会員は理科の免許を持っている教員だけでなく、他の教科の教員も多く登録していた。論文に応募するための取組は、教員の理科教育に関する指導力を高めることの一翼を担っていた。

現在は、「ソニー子ども科学教育プログラム」という名称である。「科学が好きな子どもを育てる」ために、小中学校の教員が集まって理科授業の改善に取り組む研究会が「ソニー科学教育研究会 (SSTA)」である。今年度と来年度、このSSTA愛知支部の事務局を岡崎が担当している。年3回の研修会は、主に岡崎市民会館で開催する。ぜひ、この機会に岡崎市内の教員が研修会(会員でなくても参加できます)に参加して、理科の指導力を高めていただきたいと思います。そして、子どもたちに「科学する心」を育み、科学が好きな子どもを育てていきたい。

「科学する心」とは

- すごい!ふしぎ!と身の回りの出来事に驚き、感動し、想像する心
- 自然に親しみ、自然の不思議さや美しさに驚き、感動する心
- 動植物に親しみ、様々な命の大切さに気づき、命と共生し、人や自然を大切にする心
- 暮らしの中で人、もの、出来事と意欲的にかかわり、ものを大切にすること、感謝する心
や思いやりの心
- 遊び、学び、共に生きる喜びを味わう心
- 好奇心や考える心、その心の動きから生まれる創造性や分かった時の喜びを味わう心
- 自分の思いや考えを表現し、考え・つくり出していく楽しさの体験や、やり遂げる心

平成 30 年度 国研セミナーについて

- ねらい
 - ・自然科学研究機構の研究者によるセミナーを開催することによって、世界最先端の技術に触れ、小中学校理科教員等の見識を深める。
 - ・セミナーを通して、自然科学研究機構の研究者と小中学校理科教員との交流を深める。
- 対象 岡崎市教育委員会関係者、岡崎市小中学校教員
- 開催計画

1 2 3 回	8 月 3 日 (金) 講師：基礎生物学研究所 高橋 俊一 様 講演テーマ：未定
1 2 4 回	1 0 月下旬～1 1 月上旬開催予定 生理学研究所
1 2 5 回	1 月下旬～2 月上旬開催予定 分子科学研究所

*自然科学研究機構 3 研究所の実施順序は変更になる場合があります。

*日程が決まり次第、お知らせいたします。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

平成 30 年度 岡崎市教育研究大会について

- ◆日時 平成 30 年 9 月 4 日 (火) 13 時 45 分から (受付 13 時 15 分から 13 時 40 分まで)
- ◆平成 30 年度 統一テーマ
「主体的・協働的に学びを深め たくましく生きる力を育む教育の推進」
- ◆平成 30 年度 分科会テーマと重点目標

自然の事物・現象について、科学的に問題を解決したり

探究したりするための資質・能力の育成を図る授業の創造

- 問題解決的な学習過程の重視
- 子供の実態や思考の流れを生かした単元計画の作成
- 子供の試行錯誤や思考の深まり等をもたらす教材の選定や開発
- 子供同士の協働や対話を通して学ぶ学習活動の推進
- タブレット PC 等の ICT の活用

◆レポートについて

※レポートは再生紙 A4・3 枚 (裏表刷り) 以内、横書き、左とじです。

※3 cm のとじしろをあけてください。

※レポートが 2 枚以上になるときは、組んで左上すみ 1 か所をステープラー等でとめてください。

※討論しやすいように、レポートの各ページの一番下に『学校名・学校内の順番 (学校内で同一分科会に複数提出レポートがある場合) 一ページ数一』を記入してください。

※子どもの記録や図表などを効果的に使い、まとめ方を工夫してください。

※個人のプライバシーの保護には、ご注意ください。(児童・生徒の名前を A, B, C などに変えて、個人名がわからないようご注意ください。)

※印刷部数・・・4A 理科 (小) : 80 4B 理科 (中) : 87

※提出期日・・・8 月 17 (金) の午前中までに各分会の「学校担当者 (教文委員)」の先生へ

○より多くの皆様にレポートを提出していただき、有意義な会となるよう、ご協力ください。